

# Webユーザインターフェイスを使用したCatalyst 1200および1300スイッチでのオンボードパケットキャプチャの設定

## 目的

この記事の目的は、Webユーザインターフェイス(UI)を使用してCatalyst 1200および1300スイッチでオンボードパケットキャプチャ(OPC)を設定する方法を示すことです。

## 該当するデバイス|ソフトウェアバージョン

- Catalyst 1200スイッチ| 4.1.6.53
- Catalyst 1300スイッチ| 4.1.6.53

## はじめに

OPC機能は、デバイスのトラブルシューティング機能を強化します。有効にすると、OPCはパケットデータのキャプチャに最大20 MBのメモリを割り当てます。この機能には、OPCインスタンスの動作を定義するキャプチャポイントの設定が必要です。キャプチャポイントは、OPCインスタンスに関連付けられたすべての設定を定義するために使用されます。

スイッチには最大4つのキャプチャポイントを設定できますが、一度にアクティブにできるキャプチャポイントは1つだけです。メモリに保存されたデータは、オンボードフラッシュ（空き容量がある場合）またはUSBフラッシュドライブなどの接続されたUSBデバイスに保存できます。OPCは大量のCPUリソースを消費する可能性があるため、必要な場合にのみ使用することをお勧めします。

コマンドラインインターフェイス(CLI)を使用してこの機能を設定するには、『[CLIを使用したCatalyst 1200および1300スイッチでのオンボードパケットキャプチャの設定](#)』を参照してください。

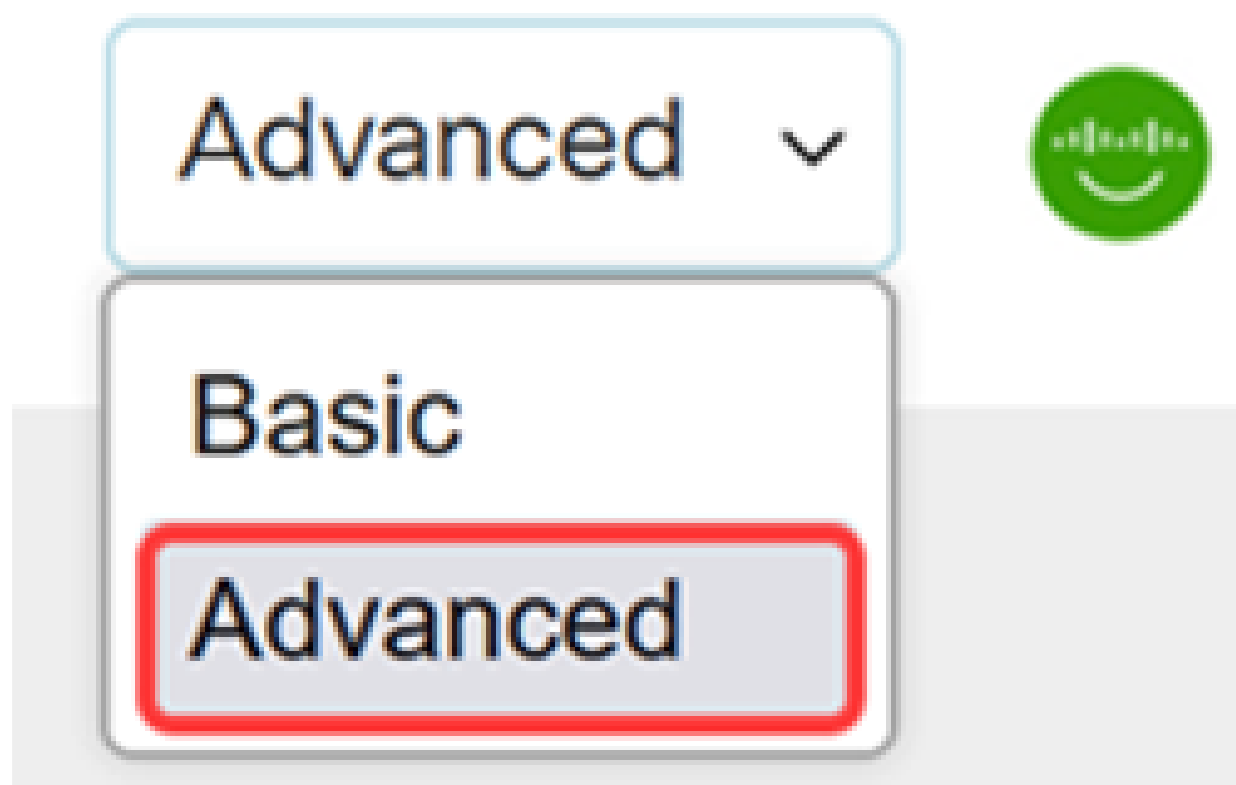
## 目次

- [OPCの設定](#)
- [キャプチャの開始と停止](#)
- [バッファファイルの操作](#)
- [バッファ統計情報](#)

## OPCの設定

### 手順 1

Catalyst 1200または1300スイッチにログインし、ドロップダウンメニューからAdvancedモードを選択します。



### 手順 2

Status and Statistics > Onboard Packet Capture > Capture Point Settingsの順に移動します。



## Status and Statistics

1

System Summary

CPU Utilization

Port Utilization

Interface

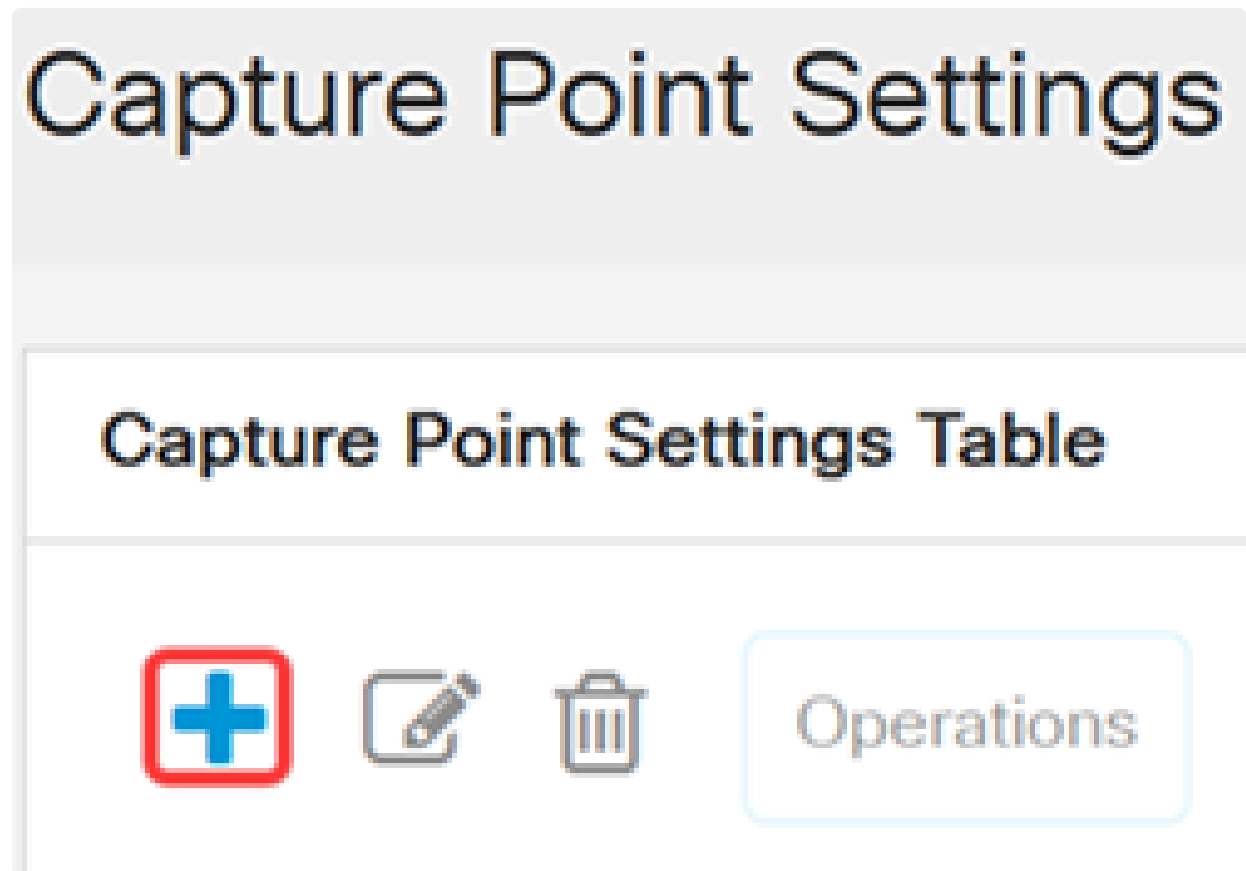
Etherlike

GVRP

802.1x EAP

### 手順 3

Addをクリックして、キャプチャポイントを追加します。



### 手順 4

次のキャプチャポイント設定を行います。

- キャプチャポイント名
- Buffer Mode : キャプチャモードを次のいずれかに定義します。
  - 1 Linear : キャプチャバッファがいっぱいになるとキャプチャが終了します。
  - 2 Circular : バッファがいっぱいになるとキャプチャがラップし、バッファの先頭でパケットが書き換えられます。
- バッファサイズ : キャプチャバッファのサイズをMB単位で定義します。すべてのキャプチャポイントのバッファは20 MBを超えることはできません。
- インターフェイス : コントロールプレーン(CPU)インターフェイスのみがサポートされます。
- Capture Direction : キャプチャするトラフィックの方向を、着信トラフィックと発信トラフィックの両方 ( 両方 )、着信トラフィックのみ(in)または発信トラフィックのみ(out)で定義します。

[APPLY] をクリックします。

X



キャプチャポイントを編集または削除するには、キャプチャポイントを選択し、編集または削除をクリックします。

2

## 1

## 手順 1

キャプチャポイントをアクティブにするには、テーブルから目的のキャプチャポイントを選択し、Operationsボタンをクリックします。

| Capture Point Settings                                                        |       |                     |                   |             |                  |          |
|-------------------------------------------------------------------------------|-------|---------------------|-------------------|-------------|------------------|----------|
| Capture Point Settings Table                                                  |       |                     |                   |             |                  |          |
| <div><div><div>+</div><div></div><div></div><div>Operations</div></div></div> |       |                     |                   |             |                  |          |
| <input checked="" type="checkbox"/>                                           | Name  | Interface           | Capture Direction | Buffer Mode | Buffer Size (MB) | State    |
| <input checked="" type="checkbox"/>                                           | Test1 | Control Plane (CPU) | Both              | Linear      | 5                | Inactive |

## 手順 2

Capture Point OperationウィンドウでActivateを選択し、Applyをクリックします。キャプチャポイント設定テーブルのキャプチャポイントの状態は、Activeに設定されます。

### Capture Point Operations

Capture Point Name:

Test1

Capture Point Operation:

☒ Activate 1

☐ Deactivate

2

Apply

Close

## 手順 3

アクティブなキャプチャポイントを非アクティブ化するには、アクティブなキャプチャポイントを選択してOperationsをクリックします。Capture Point OperationフィールドでDeactivateを選択し、Applyをクリックします。キャプチャポイント設定テーブルのキャプチャポイントの状態は、非アクティブに設定されます。

## Capture Point Operations

X

Capture Point Name: Test1

Capture Point Operation: ☐ Activate  
☒ Deactivate 1

2

Apply

Close

## バッファファイルの操作

キャプチャされたパケットはメモリバッファに保存されます。さらにデバッグするために不揮発性メモリにパケットをコピーするには、次の手順を実行します。

### 手順 1

Status and Statistics > Onboard Packet Capture > Buffer File Operationの順に選択します。



## Status and Statistics

1

System Summary

CPU Utilization

Port Utilization

Interface

Etherlike

GVRP

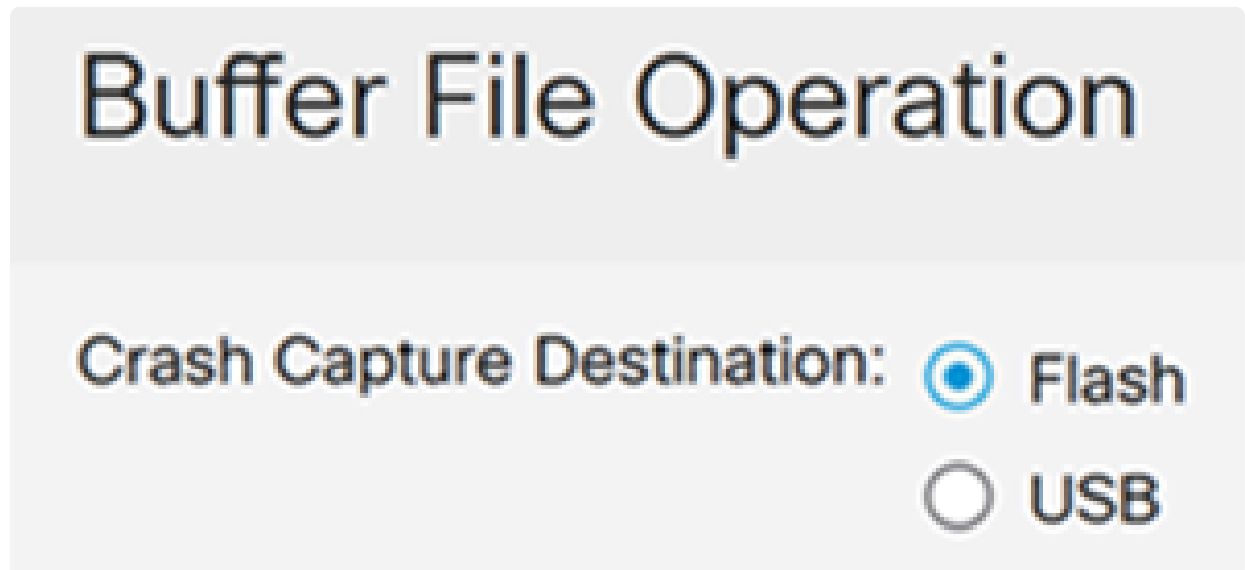
QoS 1 - 510



## 手順 2

キャプチャ中にデバイスがクラッシュすると、パケットは不揮発性メモリに自動的に保存されます。クラッシュレポートを保存する宛先デバイスを選択します。

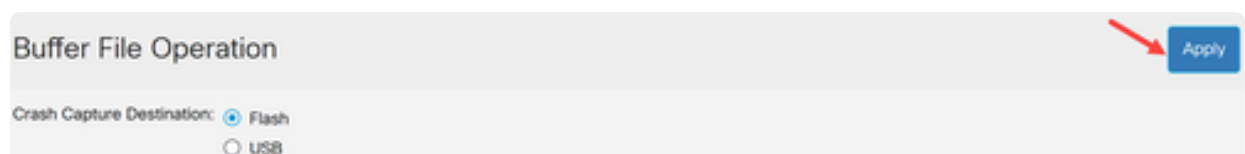
- Flash : ファイルをデバイスフラッシュに保存します ( デフォルト )。
- USB : スイッチに接続されたUSBストレージデバイスにファイルを保存します。



The image shows a dialog box titled "Buffer File Operation". Inside, it says "Crash Capture Destination:" followed by two radio button options: "Flash" (which is selected, indicated by a blue dot) and "USB" (which is unselected, indicated by an empty circle).

## 手順 3

Applyをクリックして、クラッシュキャプチャの宛先の設定を保存します。



This image shows the same "Buffer File Operation" dialog box as in the previous step, but with an additional blue "Apply" button in the top right corner. A red arrow points to this button.

## 手順 4

キャプチャポイントバッファの1つを手動でエクスポートするには、Export Captureセクションに移動し、次のように設定します。

- キャプチャポイント名 : エクスポートするキャプチャポイントを選択します。
- Capture File Name : エクスポートするファイルの名前を定義します。
- エクスポート先 : ファイルを保存するエクスポート先デバイスを選択します。

- 1 フラッシュ : ファイルをデバイスのフラッシュに保存します。

2

USB – デバイスに接続されたUSBストレージデバイスにデバイスを保存します。

### Export Capture

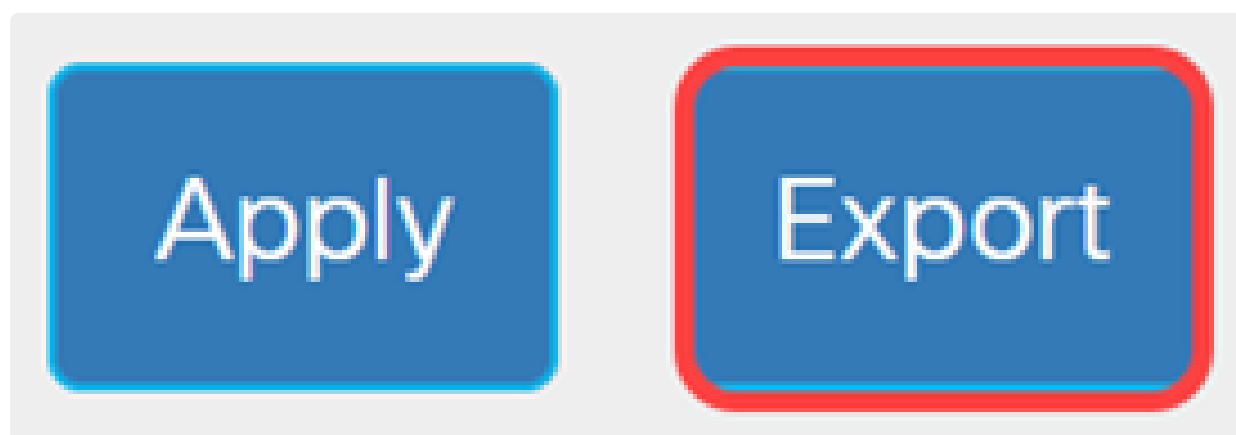
Capture Point Name: Test1 ▾

✦ Capture File Name:  (0/63 characters used)

Export Destination: ☒ Flash  
☐ USB

#### 手順 5

キャプチャポイントファイルをエクスポートするには、Exportをクリックします。



## バッファ統計情報

Buffer Statisticsページには、特定のキャプチャポイントに関する情報が表示されます。キャプチャバッファの統計情報を表示するには、次の手順を実行します。

#### 手順 1

Status and Statistics > Onboard Packet Capture > Buffer Statisticsの順に移動します。



## Status and Statistics

1

System Summary

CPU Utilization

Port Utilization

Interface

Etherlike

GVRP

802.1x EAP

## 手順 2

Capture Point Nameフィールドで、ドロップダウンリストからキャプチャバッファを選択して、統計情報を表示します。

# Buffer Statistics

Capture Point Name: 

Test1 ▾

## 手順 3

次のオプションからリフレッシュレートを選択します。

- 更新なし
- 15 秒
- 30 秒
- 60 秒

Refresh Rate:

☒ No Refresh

☐ 15 sec

☐ 30 sec

☐ 60 sec

### Note:

選択したキャプチャポイントがアクティブでない場合、リフレッシュレートは影響を受けません。

#### 手順 4

次の統計情報が表示されます。

- バッファの状態：アクティブまたは非アクティブ
- バッファモード – 線形または円形
- Buffer Size (KB)：バッファのサイズ(KB)
- Captured Packets：パケットキャプチャの数
- Buffer Used (KB)：使用される実際のバッファ・サイズ
- Packet Capture Rate per second：キャプチャされたトラフィックの1秒あたりのパケット数。
- Packets Dropped – キャプチャセッション中にドロップされたパケットの数。

### Buffer Statistics

|                                 |        |
|---------------------------------|--------|
| Buffer State:                   | Active |
| Buffer Mode:                    | Linear |
| Buffer Size (KB):               | 20480  |
| Captured Packets:               | 2607   |
| Buffer Used (KB):               | 768    |
| Packet Capture Rate per Second: | 17     |
| Packets Dropped:                | 0      |

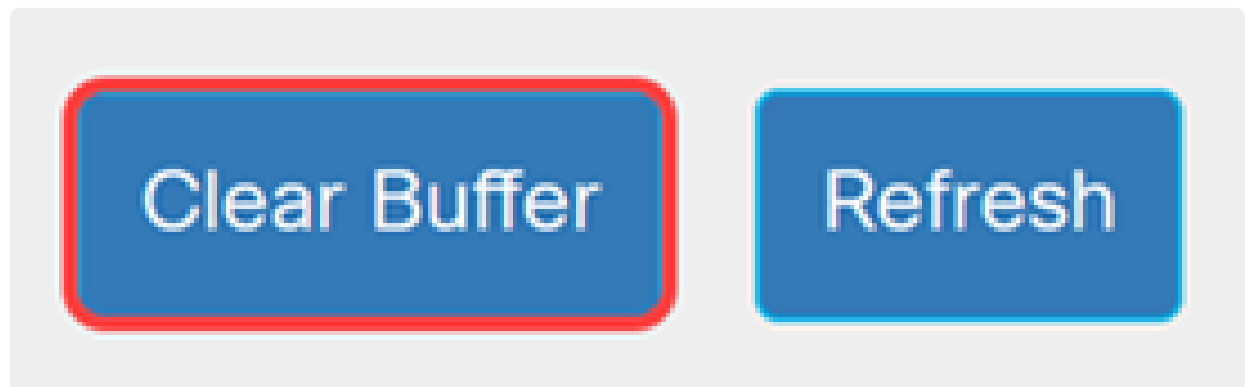
#### 手順 5

情報を手動で更新するには、Refreshをクリックします。



## 手順 6

バッファをクリアするには、Clear Bufferをクリックします。



## 結論

簡単なことだ。これで、Catalyst 1200および1300スイッチでのOPCの設定と使用に関するすべての情報が得られました。

詳細については、『[Catalyst 1200管理者ガイド](#)』および『[Catalyst 1300管理者ガイド](#)』を参照してください。

ご使用のCatalyst 1200および1300スイッチに関する他の記事をお探しですか？詳細については、以下の製品サポートリンクを参照してください。

[Cisco Catalyst 1200シリーズサポートページ](#)

[Cisco Catalyst 1300シリーズサポートページ](#)

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。